

【熊本県文化協会賞】

「挫折を乗り越えて」

宇城市立三角中学校 3年 吉田 僚真

僕は小さい頃から走ることが大好きで、小学生の時に陸上競技を始めました。頑張った分だけ、記録もどんどん伸びていくことが嬉しくて、夢中で練習に励んでいました。

ところが、そんな大好きな走ることが、ある日突然できなくなってしまいました。昨年5月、朝起きると、歩くこともできないほどの激痛に襲われたのです。すぐに病院へ行くと、右坐骨結節剥離骨折と診断され、しばらくは松葉杖生活となりました。担当の先生からは走ることを一切禁止され、僕はその事実で絶望しました。1年生の時はコロナウイルスの影響で多くの大会が中止になり、納得のいく結果が残せずにいました。だから、今年こそはと思っていた矢先の出来事でした。

その日から練習はできなくなり、その間にライバルたちに差をつけられてしまうという焦りや、大切な大会に出られないという悔しさと戦う毎日でした。気持ちは落ちていくばかりで、リハビリもする気になれませんでした。そんな状況の中、診察で先生から、直してまた走る気はあるのか、という厳しいことを言われました。でも、先生のその言葉のおかげで僕は目が覚め、すぐに成果は出ないかもしれないけど、いつか必ず変わると信じて頑張ってみようという気持ちになれました。それからは、早く治してまた走りたいという一心で、真剣にリハビリに取り組むようになりました。

そして、怪我から約2ヶ月経った頃、ついに先生から練習の許可が出ました。僕は嬉しさや安心感で胸がいっぱいになり、涙があふれそうでした。怪我をしてから初めて救われたような気がした瞬間でした。

それから練習を再開しましたが、もちろん以前のように走れませんでした。走れるだけでも感謝しなければと思ってはいましたが、復帰後の大会では、敗北が続きました。これまで経験したことのない多くの敗北に心が折れそうなこともあったけど、自分なら絶対に大丈夫だと信じて努力を続けました。そして、その年のトラックレース最後となる県中体連大会を迎えました。僕はこの大会で優勝することと、自己ベストを更新することを目標にしていました。今まで積み上げてきた努力を自信に、絶対に勝つという気持ちでレースに臨みました。苦しい場面も我慢して耐え、得意のラストパートで優勝し、自己ベストも更新することができました。

今、僕には大きな夢があります。それは、オリンピックや世界陸上に出場し、世界の舞台で活躍する選手になることです。そこに辿り着くためには、たくさんの努力が必要で、今回以上の苦労や挫折が何度も待っていることでしょう。でも、僕は努力は必ず実を結び、挫折は乗り越えられることを学びました。この経験と学びを糧に、必ず夢を叶えたいです。